

#ユースサポート

16,17,18… 第 7 号



2020 年 8 月 1日
特定非営利活動法人
ハイティーンズ サポート ちば
発行責任者 吉永 馨

ハイティーンズ サポートちば 理事長あいさつ

吉永 馨（よしなが かおる）



「ハイティーンズサポートちば（略称HSちば）」は、千葉県の定時制高校給食の存続運動をすすめるなかで誕生しました。十代後半の若い人たちへの生活支援、学習・就労支援等を行うことで、安心して学び生活できるようになること、また、若者一人ひとりがゆたかで創造的な社会の担い手となることを目指す団体として、2020年2月23日に設立されました。

「ハイティーンズサポートちば（HSちば）」は、具体的に次のような活動にとりくみます。

- 食べるものが足りない人に対して、フードバンクや生産者と連絡を取り合い食べるものを確保します。
- 高校中退者や高校卒業資格が必要な人には、現役の高校教員や専門家からグッドアシストをしてもらえます。
- 今やっている仕事やアルバイトがどうも合わない、もっといい仕事・アルバイト先を見つけたい、そういう人には、HSちばと相談しながら、あなたに合った働き口を見つけだしていきます。

このように「ハイティーンズサポートちば（HSちば）」は、生活・学習・仕事などを中心に十代の若者支援をしています。スタッフは、定時制高校などの経験ゆたかな高校教員やスクールソーシャルワーカーなど、若者支援のエキスパートがそろっています。

「自分のことは自分でやる。他人にはお世話になりたくない。」中にはそのような人もいることでしょう。その気持ちはよくわかりますが、これからの社会は共存して自分をより高めていく時代です。学習・就労のことで困った時は、「ハイティーンズサポートちば（HSちば）」のドアをノックしてください。そこから一緒に、前に進んでいきましょう。



神奈川県立田奈高校「ぴっかりカフェ」の様子
(2018年12月13日 訪問)

「2020年度 パルシステム千葉 コミュニティ活動助成基金 交付団体」に選定されました！（2020年3月25日）

団体名	助成決定額 (円)	事業名/助成内容
ハイティーンズ サポートちば	300,000	【10代後半の若者への相談及び生活支援事業～食支援、修学・就労支援を中心に～】 生きづらさを抱えた10代後半の若者が利用できる相談窓口を開設し、食や就学・就労支援を行うとともに講演会や広報物などによる啓発活動を行います。相談会、講演会の開催費用や広報費用等の一部を助成します。

(パルシステム千葉コミュニティ活動助成基金 HP より)

2020年2月23日(日)

NPO 法人「ハイティーンズサポートちば」

設立総会開かれる

会場 千葉市生涯学習センター



2020年2月23日(日)午後1時より、千葉市生涯学習センター小ホールを会場に、NPO 法人「ハイティーンズサポートちば」の設立総会が開かれました。新型コロナウイルス感染の影響のなか、時期的にギリギリの開催でしたが、会場には30名の方に集まっていただき、新しいNPOの船出とすることができました。

設立総会に先だって開催された記念講演では、NPO 法人パノラマ代表理事の石井正宏さんをお招きし、神奈川の県立高校で取り組まれている「居場所カフェ」のとりくみについて話していただきました。(内容は次頁に掲載します。)

総会の挨拶では、まず吉永さんからNPO 設立に至った経緯と趣旨が語られ、その後特定非営利活動法人ハイティーンズサポートちばの設立、定款をはじめ9つの議案が提案されました。限られた時間でしたが活発な質疑が交わされ、承認されました。

以下、NPO 法人ハイティーンズサポートちば設立の趣旨と設立当初の役員についてご紹介します。

□設立総会 議事(審議事項)

- | | |
|-------|----------------------------|
| 第1号議案 | 特定非営利活動法人ハイティーンズサポートちば設立の件 |
| 第2号議案 | 同ハイティーンズサポートちば定款の件 |
| 第3号議案 | 設立当初の主たる事務所所在地の件 |
| 第4号議案 | 設立当初の役員の件 |
| 第5号議案 | 設立当初の資産の件 |
| 第6号議案 | 事業計画及び予算の件 |
| 第7号議案 | 設立当初の入会金及び会費の件 |
| 第8号議案 | 法第2条及び第12条の規定に関する確認の件 |
| 第9号議案 | 法人設立認証申請の件 |

○NPO 設立の趣旨 (「第1号議案」より)

わたしたちは、高校生を中心とした10代後半の若者支援をテーマに、これまで「千葉県夜間定時制高校の給食を守る会」(2015年12月～)、「高校生の食を考える会」(2019年度)として活動してきました。

この活動を通じて、「見えにくい」とされる高校生の貧困の実態、「SOS」を出しにくい高校生世代にどう寄り添っていくかという課題について検討し、そのためには相談できる窓口、一人ひとりの事情に配慮した食や就労支援の実施が必要であると痛感しました。

また、学校の枠に閉じこもらず、地域の支援団体と連携し、福祉行政等とつながっていく活動が大切であることがわかりました。こうした経緯からNPOを立ち上げ、千葉県における若者支援の拠点として責任ある活動を担おうと考えました。活動の柱は次の4つです。

- (1) 相談窓口の開設と個別の相談活動
- (2) フードバンクや農業生産者等と連携した食支援、校内

「居場所カフェ」の開設・運営

- (3) 若者の貧困問題、活動交流の場としての集いの開催
- (4) 相談窓口や食支援等の情報発信、活動報告、意見交流の場としての広報活動

これらの活動を通して、生活上の困難を抱える高校生や高校中退者など10代後半の若者に対する相談窓口となり、必要とされる食支援、修学・就労支援等を行うことにより、安心して学び生活していけるようになることをめざします。また、若者一人ひとりがゆたかで創造的な社会の担い手となることをめざします。

□設立当初の役員

- | | |
|------|------------------|
| 理事長 | 吉永 馨 (元千葉県立高校教員) |
| 副理事長 | 三尾 敬次 (千葉県立高校教員) |
| 副理事長 | 宮内 渉 (千葉県立高校教員) |
| 理事 | 石橋 正治 (千葉県立高校教員) |
| 監事 | 新谷 卓 (元千葉県立高校教員) |

記念講演

高校で居場所カフェはじめました！

講師 NPO法人パノラマ代表理事 石井正宏



記念講演の講師は、NPO 法人パノラマ代表の石井正宏さん。社会に出づらい若者を色々な形で支援しておられます。今回は、神奈川県立田奈高校での居場所カフェ“ぴっかりカフェ”のマスターとして、子ども若者支援のエッセンスを語っていただきました。

「居場所カフェ」は、いわばサードプレイス。ファーストプレイスの家庭やセカンドプレイスの学校や職場では、役割や立場が固定されているが、サードプレイスでは、子どもも大人も関係性が流動的とのこと。教員や親ではない大人、さまざまなバックグラウンドを持った大人との出会いがあり、関係が生まれます。

困窮家庭の子どもたちは、経済的に厳しいだけではなく文化的な経験も乏しく、人脈も狭く孤立化しやすいと言われています。そんな子どもたちにとって、“ぴっかりカフェ”は「文化的シャワーを浴びられる場所」だといいます。

誕生日にバースデーソングを歌ったり、七夕に浴衣を着て短冊に願い事を書いたり、そんな当たり前と思える出来事が人生で初めての経験。だから生涯忘れ

れない一生の思い出になるのです。石井さんいわく、「学校を開くと学校に文化がなだれ込む文化資本のシェア（再分配）」。学校を閉じた公共空間から開かれた公共空間へ。

私たちが有している健康で文化的な生活を営む権利。憲法 25 条で保障されているといいますが、生活保護支給額では文化的資本にアクセスできていないという現実があります。石井さんの場合は音楽という文化的資本が人とのコミュニケーションのフックとなり、生きる上での力になっているそうです。

特に印象的だったのは、専門性よりも関係性の図式。「サードプレイスで出会うちょっと変な大人が生きるストライクゾーンを広げる」とご自身の経験を語っていただきました。

【当日の資料より①】

セカンドプレイスに出現したサードプレイス
校内居場所カフェはどんな場所？

校内居場所カフェの3つのコンセプト

1. 安心で安全な居場所の提供
2. 文化資本のシェア(再分配)
3. ソーシャルワークの起点

※「さぼり場」や「たまり場」であってもいいがそれだけでは居場所ではない。

【当日の資料より②】

居場所にふさわしくない人たち

- ・教えたがり
→今は教わりたくない生徒がいます。
 - ・関わりたがり
→放っておいて欲しい生徒がいます。
 - ・知りたがり
→自分のことを話したくない生徒がいます。
- 居場所では 肉食系よりも 草食系で！

役割がシャッフルしない

1 若者食支援事業

○高校生の貧困と食の実態について調査研究を行い、対象者やニーズを把握します。

○県立高校における食支援を検討します。

2 若者修学支援事業

○修学困難にある高校生の実態を把握し、支援のあり方を検討します。

○修学困難にある高校生を対象とした「相談会」を開催します。

3 若者就労支援事業

○若者の就労実態を把握し、支援のあり方を検討します。

○高校中退者、未就労の若者対象とした「相談会」を開催します。

4 高校生居場所づくり事業

○高校生居場所カフェの課題をまとめ、実施に向けた準備を行います。

5 若者の貧困問題など普及啓発事業

(1) 講演会を開催します。(現在秋期の「講演会」に向け準備中です。)

(2) 相談会や講演会の案内、活動報告を中心に「広報」を発行します。

(3) HPを開設し、活動内容と課題を発信します。(HPは現在準備中です。)

相談コーナーの ご案内



「生活が大変」「高校が続けられない」「仕事が見つからない」…などなど困りごとのある人、心当たりがある方は、下記までご連絡ください。NPOスタッフがお話をうかがいます。

現在、HP開設を進めていま
<https://hs-chiba.net/>
ラインによる相談受付も準備中
です。



猫それぞれ・人それぞれ

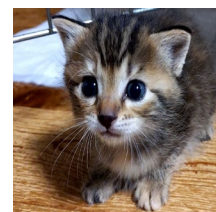
理事 宮内 渉

在宅勤務の間に赤ちゃん猫3匹の面倒を見ることになりました。ミルクボランティアを妻が始めたときは、「全て一人でやるから」という約束でした。しかしほぼ終日在宅の私はパートで日中家を空ける妻に代わりいきおい猫にミルクを与えるなどする羽目になりました。猫たちにはそれぞれ仮の名前があるようですが、私は勝手にチェーホフの「三人姉妹」にちなんで、大きめの猫から順にオーリガ・マーシャ・イリーナと名付けて劇を演じさせ、面白がっていました。オーリガは甘えっ子で、膝にのせるといつまでもしがみついています。マーシャは哺乳瓶をくわえるといつまでも離さない、だらだら。イリーナは早飯で、さっさと引き上げるとあちこち歩き回るアウトドア派。乳幼児でも個性は明らかに出ます。既に3匹成猫もありますが、多数の猫を見てつくづく「猫それぞれ」と痛感します。

人間界の子どもたちは、コロナで3月から休校が続き、再開後も一斉行動は少なくなっています。これを機に、子どもも「人それぞれ」なんだという前提を強く持って教育がなされることを望みます。子ども数は少なくなり、多くの大人が関わるので、余裕を持って面倒を見られるはずですが、過干渉にならないよう注意を要しつつ、子どもの自立に手を貸すという立ち方がいいと、改めて思います。

三猫姉妹はネット譲渡会で皆引き取り希望者がつき、6月初めにお別れしました。

それぞれ別の家で、別の飼い主の元、自立した成猫として末永く暮らすことを望むのみです。



長女オーリガです！

○NPO法人「ハイティーンズサポートちば」は、2020年6月5日千葉県より認証を受けることができました。いよいよ本格的な活動開始です。多くの方々の参加、お待ちしております。(編集; 三尾敬次)

☆あなたもぜひ会員になって応援してください！ ☆別紙「会員募集案内」をご覧ください。